

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

<p>① 交流名 (事業名)</p>	<p>沖縄と世界を結ぶ「ウチナーネットワーク」を基軸とした国際交流施策の多面的展開</p>
	<p>(1) 沖縄県は全国有数の移民県であり、海外在住のウチナーンチュ(沖縄県系人)は約42万人と推計されている。ウチナーンチュは、移民開始から100年以上経過した今もなお、海外の地においても故郷を忘れず、沖縄の文化や精神を大切にしながら、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーを有している。</p> <p>(2) また、琉球王国時代には、「万国津梁(世界の架け橋)」の精神で、日本、中国、東南アジアとの中継貿易により「平和的共存共栄」を実現してきた歴史を有している。</p> <p>(3) 沖縄県は、令和4年度からの10年間を計画期間とする新たな振興計画(中間とりまとめ)において、沖縄独自の精神文化や歴史的経緯により深い絆で結ばれた世界に広がるウチナーネットワークを交流基盤として位置づけるとともに、「沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成」を目指すこととしている。</p> <p>(4) 国際交流施策としては、「①県民、②県系人、③沖縄に縁のある人々による多面的な繋がり」を「ウチナーネットワーク」と定義し、世界各地の県人会や中国福建省等とのウチナーネットワークを基軸として、沖縄のソフトパワーを活用した他都道府県に類を見ない多面的な国際交流施策を展開している。</p> <p>【沖縄県の交流施策の概要】 (※施策が多岐に亘るため詳細は別添参照)</p> <p>1 Key Word ——[集結]——</p> <p>■世界のウチナーンチュ大会</p> <p>官民による実行委員会(第6回大会:124団体(県関係を除く))により、1990年度から概ね5年に1回開催。国内外のウチナーンチュが母県沖縄で一堂に会し、沖縄を思う心やアイデンティティーで繋がる類い希なるウチナーネットワークの強固さを再確認し、継承・発展を図るとともに、沖縄独自のソフトパワーを発信すること等を目的とする。海外参加者数は、第1回大会の2,397人から、前回の第6回大会では7,353人と約3倍に増加している。各大会で各国県人会や民間大使等から沖縄県の国際交流施策に係るユニークな提案等がなされ、県が施策化している。また、大会を機にWUB(Worldwide Uchinanchu Business Association)やWYUA(世界若者ウチナーンチュ連合会)といったウチナーネットワークを支える団体が発足している。</p> <p>2019年度には世界のウチナーンチュ大会をモデルとして和歌山県で「和歌山県人会世界大会」が開催される等、他県において国際交流施策のモデルケースとなっている。</p> <p>〈主な取組の成果〉</p> <p>① 第1回大会(1990年) ウチナー民間大使制度の創設</p> <p>② 第2回大会(1995年) WUB(Worldwide Uchinanchu Business Association)の設立</p> <p>③ 第3回大会(2001年) ジュニアスタディーツアー(沖縄県系子弟を沖縄に招聘し、県内中高生と合宿し沖縄を学ぶプログラム)の発足</p> <p>④ 第4回大会(2006年) ホストファミリーバンク(海邦養秀ネットワーク構築事業)の発足(海外県人会宅へ県内高校生・大学生を派遣しホームステイさせるプログラム)</p> <p>⑤ 第5回大会(2011年) WYUA(世界若者ウチナーンチュ連合会)の発足</p> <p>⑥ 第6回大会(2016年)「世界のウチナーンチュの日」の制定</p> <p>2 Key Word ——[象徴]——</p> <p>■「世界のウチナーンチュの日」の制定と「世界のウチナーネットワーク強化推進事業」</p> <p>2016年開催の第6回世界のウチナーンチュ大会において、2名の沖縄県系子弟留学生の提案を受け、グランドフィナーレが開催された10月30日を「世界のウチナーンチュの日」として制定した。</p> <p>2017年度から、世界中のウチナーンチュがウチナーンチュであることを誇りに思い、同記念日を世界中で沖縄の風土や伝統文化等に想いを馳せる象徴的な日として定着させ、世界のウチナーネットワークの継承・発展をより効果的に進めることを目的に「世界のウチナーネットワーク強化推進事業」を実施している。2019年には、県内17市町村、10の関係団体、20の海外県人会等において自主的な催しがなされる等取組が広がっている。</p>

① 沖縄文化芸能指導者派遣事業

2018年度から海外県人会が自主的に取り組む「世界のウチナーンチュの日」に係る催し等に対して沖縄から芸能指導者を派遣し、エイサー、琉舞、三線等を指導するワークショップ（催しの直前一週間程度）を実施している。これまでに5ヶ国6カ所の県人会において実施し、継続的な県人会活動の支援と沖縄の文化芸能の継承、現地における沖縄のソフトパワーの発信に繋がっている。

2020年度はコロナ禍で中止となったものの、2021年度は、ペルー沖縄県人会、米国シカゴ沖縄県人会、ブラジルカンボグランデ沖縄県人会を対象にオンライン指導を実施中である。

② レッツスタディーウチナーネットワーク事業・移民の歴史啓発事業

2016年度から、ウチナーネットワークの重要性や移民の歴史、県系人の居住地での生活・文化に関する総合的な学習を推進する指導者養成及び教材作成、それらを活用した沖縄県内の小学校・中学校・高校・大学等での出前講座等を実施している。

2017年度からは、ウチナーネットワークや移民の歴史に関する啓発ツアー・イベントを開催し、「世界のウチナーンチュの日」の認知度向上に向け取組を推進している。

養成指導者は学校現場及び自らの活動の場でウチナーネットワークに係る学習の場を設ける等、自主的な取組に繋がっている。また、作成教材はWUN(Worldwide Uchia Network)のホームページ上でオンデマンドで活用出来るよう公開している。2020年度には、コロナ禍で海外との交流が滞るなか、2019年度に作成した教材の英語・スペイン語版を作成し、海外県人会で活用出来るよう同ホームページ上で公開した。

〈主な取組成果〉(2016年度～2020年度)

ア 養成指導者数(累計) 160名

イ 出前講座受講者数(累計) 16,558名

2017年度から2019年度にかけて、移民史劇(3作)の制作・上演を行った。海外に雄飛した先人達の苦難や故郷沖縄に対する思い等を学び、県民の海外移民等に対する理解を深めた。

移民史劇は一部アーカイブ化・多言語化してWUN(Worldwide Uchina Network)のホームページ上に掲載し、海外からもオンデマンドで視聴できるようにしている。

2019年度に移民の歴史啓発事業として製作・上演したペルー在住であった伊芸銀勇氏を題材とした移民史劇は、同氏の出身地である宜野座村で村民(子どもたち)により再演できるよう、学習発表会用キット(台本等)が開発され、同村に贈呈される等、地域住民の海外移民に対する意識啓発にも繋がっている。

〈主な取組成果〉(2017年度～2019年度) 移民史劇視聴者数(累計) 3,512名

③ 世界のウチナーンチュの日トークイベント

2017年度から沖縄県内において国内外で活躍するウチナーンチュの基調講演等を実施している。2020年度は、コロナ禍におけるオンライン配信の強みを生かし、海外県人会とのライブトークや、火災により焼失した首里城の復旧・復興の状況を配信するとともに、アーカイブを多言語化しWUN (Worldwide Uchina Network)のホームページでオンデマンドで視聴できるよう公開している。

〈主な取組成果〉(2017年度～2021年度)

トークイベント参加者・当日視聴者数(累計) 3,416名

② 交流の内容

3 Key Word —[集積(プラットフォーム)]—

■「ウチナーネットワークコンシェルジュ」の設置

コロナ禍により海外派遣や対面による交流が滞るなか、世界に広がるウチナーネットワークの次世代への安定的な継承と発展に向けて、2021年4月から以下の機能を総合的に担う「ウチナーネットワークコンシェルジュ(UNC)」を、JICA沖縄センター内に開設した。

【UNCの機能】

① 人的ネットワークの継承(コア人材の育成)

② 多言語による情報発信と集約(WEB、Instagram、Facebook、YouTube、メールマガジン)

③ 多言語による日常的な相互交流の促進(オンライン・オフラインイベントの実施等)

④ 多言語による相談窓口

⑤ 移民の歴史継承(ルーツ調査等)

運営はWYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)とJOCA沖縄(公益社団法人青年海外協力協会沖縄事務所)のJVが担い、ウチナーネットワークの次世代への安定的な継承と発展に取り組んでいる。

〈取組の成果〉(2021年度上半期)

イベント開催8件、ニュースレター配信5件、YouTube 動画配信6件、相談件数:海外27件、国内23件 等

コンシェルジュの自主事業として「World Youth Uchina Shinka Online」と称する海外県人会や次世代の若者を対象としたオンラインイベントが、アルゼンチン、ブラジル、ボリビア、アメリカの4ヶ国で開催される等、コロナ禍であっても県民と海外沖縄県系人との日常的な相互交流が実現している。

4 Key Word —[育成]—

(1)ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業

海外在住の沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人材を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能習得機関で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での業務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と海外の沖縄県系人社会及びアジア諸国等とのネットワークの架け橋となる人材を育成し、本県と出身国との国際交流に寄与させることを目的に、1969年度から実施している。留学生は、海外県人会から推薦された者の中から沖縄県が選抜する。

育成人材の中からは母国で留学生OB/OG会を立ち上げ活動する者や、母国の県人会幹部となる者も排出され、将来のウチナーネットワークを担う海外人材が育成されている。
<主な取組成果>(1969年度～2019年度)海外留学受入実績(累計) 667名(15ヶ国から受入れ) ※2020年度はコロナ禍の影響で受入実績なし。

(2)ウチナージュニアスタディー事業(合同合宿型)

沖縄県の国内外移住者子弟(中・高校生)を本県に招聘し、県内において同世代の青少年と1週間程度の合宿をしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、国内外移住者子弟の母県・沖縄への理解と相互の絆を深めるとともに、本県及び国内外の沖縄県系人社会においてウチナーネットワークを担う次世代を育成することを目的とする。参加者は、国内外県人会から推薦された者の中から沖縄県が選抜する。

2001年度に「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして実施され、海外県人会等からの継続要望を受けて2002年度から毎年度事業を実施している。2020年度はコロナ禍の影響で事業を中止したが、2021年度はオンラインにより実施した。海外参加者の中には、来沖を機に自身のルーツ探しや親戚捜しを行う者もあり、その際には市町村・交流団体・県立図書館(リファレンスサービスとしてルーツ調査を実施)が連携して対応しており、海外に住む県系人と沖縄の親族等を繋ぐ機会にもなっている。

海外の事業参加者OB/OGからは、1年間の長期留学となるウチナーンチュ子弟留学生等受入事業に参加し沖縄をより深く学ぶ者や、海外県人会の幹部となる者も排出されている。また、県内の事業参加者OB/OGからは、WYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)のサポーターとなる等ウチナーネットワークに深く関わる者も排出されており、将来のウチナーネットワークを担う人材が育成されている。

<主な取組成果>(2001年度～2021年度)(県内・国内外受入実績(累計) 803名(17ヶ国から受入れ)

(3)海邦養秀ネットワーク構築事業(派遣型)

沖縄県の若い世代(高校生・大学生・専門学校生)を海外に派遣し、国際感覚に富む人材を育成するとともに、現地の沖縄県系人、特に若い世代との交流を通して相互の絆を深め、派遣先国の沖縄県系人社会の活性化を図ること等により、ウチナーネットワークの継承と発展に資することを目的に、2007年度から実施している。

2006年度に開催された「第4回世界のウチナーンチュ大会」の「ワールド・ウチナーンチュ・シンポジウム」で議決され、県が施策化した事業である。

事業参加者OB/OGからは、県内大学において実行委員会を立ち上げ、「World Youth Uchinanchu Summit」と称して県内全島の沖縄県出身移住者子弟留学生を巻き込んだ学生サミットを企画する者や、WYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)の理事を務める者等ウチナーネットワークに深く関わる者も排出されている。

<主な取組の成果>(2007年度～2019年度)派遣・受入実績(累計) 156名(7ヶ国へ派遣、6ヶ国から受入れ)(※2008年度から2011年度までは受入事業も実施)

5 Key Word —[促進]—

■ウチナー民間大使の認証

1990年の「第1回世界のウチナーンチュ大会」の開催を契機に「ウチナーンチュ民間大使」制度が創設された。これまでに名称変更を含め数度の制度改正等を行い、2021年3月現在、263名が「ウチナー民間大使」として認証されている。

沖縄県では、2004年度からウチナー民間大使が実施する在住地域における沖縄県との交流の架け橋となる活動に対する助成を行ない、海外における沖縄県との交流活動を促進している。

<主な取組成果>(2004年度～2020年度)助成実績(累計) 62件

6 Key Word ——[友好]——

■中国福建省との友好交流

沖縄県と中国、特に福建省との交流の歴史は古く、かつて沖縄が「琉球」と呼ばれていた600年以上前にまで遡る。先人達の交流の歴史を基礎として、1997年に沖縄県と福建省は友好県省を締結、2014年に福州駐在所を開設し、これまで様々な分野での交流を推進している。

2017年には、友好県省締結20周年を祝い、初めて両県省において記念式典・祝賀会の開催が実現した。20周年記念事業として、歴史・文化をテーマとしたシンポジウムや合同芸能公演、福建沖縄観光物産展や経済交流セミナーなどを開催したほか、福建省から沖縄県に獅子像が寄贈された。

また、沖縄県と福建省の相互で公費留学生の受入れ・派遣を実施しており、2021年3月には「在福建省沖縄留学生同窓会」が設立される等、交流が活発化している。

〈取組の成果〉

①公費留学生受入数 31名(1995年度～2021年度)

②公費留学生派遣数 12名(1997年度～2021年度)

2020年、新型コロナウイルスの世界的な感染が拡大し、世界各地で医療物資が不足するなか、沖縄県から福建省に防護服を寄贈、福建省からもマスクの寄贈があり、相互扶助の精神で支援がなされた。

また、近年、福建省内の大学間で沖縄の伝統芸能であるエイサーが人気となっており、2015年から大学間で演舞を競う福建省大学エイサー大会が6回に渡り毎年開催されている。2020年度はオンライン開催となり、沖縄県から開会挨拶や参加者に向けた応援ビデオメッセージを送付して後援する等、コロナ禍においても両地域の交流活性化に向けて取り組んでいる。

③ 背景・経緯

沖縄県は、島嶼県であるが故の規模の不経済性、市場の狭小性、資源の狭隘性等の脆弱性を有する一方、日本本土と東アジア及び東南アジアの中心に位置する地理的特性に加え、琉球王国時代から交易や交流により日本及びアジア・太平洋諸国をつなぎ共に繁栄してきた歴史的特性等を有する。

また、全国有数の移民県である沖縄県の国際交流の特殊性として、沖縄の精神文化である「チムグクル(肝心・慈愛)」で強固に結ばれた、世界に約42万人と推計されるウチナーンチュ(沖縄県系人)とのネットワークがある。このウチナーネットワークを基軸として、沖縄県は他の都道府県に先駆けて世界各地で国際交流に取り組んできた歴史を有する。

第2次世界大戦以前(1929年)には、海外から送金額が県の歳入予算の66%に達したこと、大戦後は、荒廃した沖縄に世界各地の沖縄県系人から物資が送られ沖縄の復興を支えたこと、近年では、消失した首里城の復興再建に向け、国内外の県人会から多額の寄附金等が寄せられていること等、本県の精神文化である相互扶助の精神が受け継がれている。

沖縄県は、県民自らが2030年の沖縄のあるべき姿を描いた「沖縄21世紀ビジョン」を2010年に策定し、「世界に開かれた交流と共生の島」を将来像の一つとして定めた。本県の有する地域特性は、克服すべき条件不利性を含む一方、優位性へと転化することにより潜在力を最大限に引き出すことが、国の経済成長と新たな発展のフロンティアとしての期待に応えることに繋がる。

こうしたことから、沖縄21世紀ビジョンには、「地理的・歴史的特性を踏まえつつ、我が国の国際貢献の一翼を担い、アジア・太平洋地域との交流や世界各地とのネットワークづくりを行うことが、沖縄が担うべき地域外交であり、将来像「世界に開かれた交流と共生の島」実現のための推進戦略」と位置づけている。

沖縄県は、令和4年度からの10年間で計画期間とする新たな振興計画(中間取りまとめ)において、独自の精神文化で沖縄との深い絆を有するウチナーネットワークを交流基盤として位置づけ、「沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成」を目指すこととしている。

本県の国際交流施策は、「結集・象徴・集積・育成・促進・友好」の観点から多面的に展開することにより、各施策の相乗効果を高めている。

1 Key Word ——[集結]——

■世界のウチナーンチュ大会

5年に1度、ウチナーネットワークの集大成として、世界各地からウチナーンチュが「集結」できる大型イベントの開催により、すべての県系人が「5年後にもう一度沖縄で再会を！」との共通目標を持つことが出来る。大会のグランデフィナーレは魂が震える程感動的なものであり、世界のウチナーンチュが沖縄の地で感動を共有することで、未来に向けたより強固な連帯感を育むことができる。

また、同大会を単なるイベントで終わらせず、政策提言の場を設定し、沖縄県が大会参加者から受けた提案を施策化することで、世界各国の県系人と沖縄県との信頼関係を構築している。

2 Key Word —[象徴]—

■「世界のウチナーンチュの日」の制定と「世界のウチナーネットワーク強化推進事業」

5年に1度の「世界のウチナーンチュ大会」に加え、毎年沖縄のアイデンティティーを実感できる「世界のウチナーンチュの日」を制定したことで、県内市町村、県内交流団体、国内外県人会等が「自主的に」祭事等の開催に取り組む契機となっており、同記念日はウチナーネットワークの「象徴」として機能している。

好事例として、2021年10月には、「本記念日を含む週を『ワールドウチナーンチュウィーク』として、豚肉料理を食べよう！」という提案がWUB (Worldwide Uchinanchu Business Association)からなされ、米国(ハワイ)やブラジルの県人会が賛同し、レストランで豚肉料理を提供するレストランウィーク等が実施されたとの情報を得ており、民間主体の取組に波及している。

ウチナーネットワークの継承・発展に向けては、出前講座では毎年1,000名程度の受講者を排出しており、ウチナーネットワークの基盤となる人材育成に向けた裾野を広げている(受講者数(累計)16,558名)。また、指導者を養成することで、県民の自主的な取組を促進している。

3 Key Word —[集積(プラットフォーム)]—

■「ウチナーネットワークコンシェルジュ」の設置

ウチナーネットワークの継承・発展に向けては、5年に1度の「世界のウチナーンチュ大会」に加えて、県民と国内外県人会等の関係者が日常的につながることが重要である。

2020年度に実施した国内外県人会等に対するアンケート調査では、要望が多かった機能は「海外との人的ネットワークをつなぐ機能」、「SNSやオンラインイベント等を実施する機能」等であった。特に今般のコロナ禍においては、デジタル技術を活用した交流の重要性が認識された。

④ 交流の成果

以上の経緯から、ウチナーネットワークのつながりをより強固にするために、オンラインやSNS等を活用した多言語による日常的な交流や情報発信、相談窓口等の機能を総合的に担う「ウチナーネットワークコンシェルジュ」を設置したものであり、国内外県人会等の要望に対応した効果的な施策となっている。

4 Key Word —[育成]—

■受入・合宿・派遣型人材育成事業の実施

沖縄県においては、①受入型のウチナーンチュ子弟等留学生受入事業、②県内合同合宿型のウチナージュニアスタディー事業、③派遣型の海邦養秀ネットワーク構築事業を双方で実施することにより、以下の効果が得られている。

①沖縄県系子弟留学生在が、1年間の留学期間で沖縄の歴史や文化等を深く理解し、沖縄の若者等とのネットワークを構築することで、これらを母国に持ち帰り、県人会活動等の中核となる等、将来のウチナーネットワークを担う人材を育成する

②合同合宿により、県内の若者は沖縄県系子弟の故郷沖縄に対する熱い想いや沖縄の伝統文化を大切にしたい心に触れ、自らのアイデンティティーを考える機会となること、海外の若者は沖縄で歴史や文化を体感し、沖縄をより身近なものとして捉える機会となること等により、双方のウチナーネットワークへの興味と理解を促進する

③県内若者が、派遣先で沖縄県系人の活躍や地域社会への貢献を直接体感することで、国際性と海外雄飛の精神を涵養する

育成人材の中からは、県内でウチナーネットワークに関するイベントを自主企画する者や、母国で留学生OB/OG会や県人会の幹部となる者等も排出されており、ウチナーネットワークコンシェルジュを通じて、これらのコア人材の日常的なつながりや自主的な活動が促進されている。

5 Key Word —[促進]—

■ウチナー民間大使の認証

ウチナー民間大使の認証と活動への助成により、沖縄と母国を繋ぐ草の根レベルでの交流活動が促進されている。助成事業は、特に琉舞や三線、空手などの沖縄の文化や伝統芸能の普及・継承に係る活動に多く活用されており、行政施策を補完する取組となっている。

6 Key Word —[友好]—

■中国福建省との友好交流

福建省との交流は、琉球王国時代からの歴史的関係性に基づく相互扶助の精神が基盤となっており、コロナ禍の医療物資の緊急支援や、福建省で開催される大学エイサー大会への指導者(沖縄県の青年団)派遣等、民間レベルの文化・芸能交流にもつながっている。これらの継続的な交流は、両県省の繁栄のみならず、友好締結に関する議定書に記されている「日中両国民の子々孫々の友好」にも寄与するものである。

<p>⑤ 今後の展望</p>	<p>【国内外県人会等をカウンターパートとした交流】 2021年4月に「ウチナーネットワークコンシェルジュ」を開設したことにより、①ウチナーネットワークの次世代人材への集積、②海外との距離や空間を超えた日常的な相互交流、③多言語による情報発信・集約、相談窓対応などがなされており、これらの機能を集約することで、よりきめ細やかなサービスが可能となった。 今後は、ウチナーネットワークコンシェルジュを通じて、海外移民の歴史資料に関する情報収集や、沖縄県立図書館等と連携した移民資料のアーカイブ化など、移民の歴史承に係る取組を強化していく。</p> <p>【中国福建省との友好交流】 世界的に新型コロナウイルス感染が急拡大した最中の医療物資の相互支援や、コロナ禍における福建-日韓青年オンライン交流フォーラムへの参加等、交流状況は良好である。 次年度は福建省との友好提携25周年にあたる記念すべき年であり、記念式典や物産ウィーク、留学生相互派遣に係る覚書の締結等、様々な行事を予定している。 これらに加え、両県省代表者(沖縄県知事及び福建省長)によるオンライン会議を開催し、「コロナ禍及びコロナ収束後の交流のあり方」について議論を進めていく予定である。</p>
<p>⑥ その他</p>	

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	<p>5年毎に沖縄県系人が沖縄に一堂に『集結』し、ネットワークの強固なものとするとともに、県の国際交流施策に係る提言等を行う大会の実施は希有であり、和歌山県においても本県の取組を参考に「和歌山県人会世界大会」が開催される等、他県のモデルケースとなっている取組である。</p> <p>また、「世界のウチナーンチュの日」は、県内市町村や県内交流団体、世界各国の県人会等でこの日を祝う催しが自主的に開催される等、県民や沖縄県系人にとってアイデンティティーの『象徴』として機能しており、他に例を見ない取組である。</p> <p>加えて、コロナ禍を契機とした「ウチナーネットワークコンシェルジュ」の設置は、単なるオンラインイベントの開催に留まらず、オンラインやSNS等を駆使したサービスを総合的に担う機能の集約化を図ったものであり、先進性が高い。</p>
② 独自性	<p>本県は、沖縄の精神文化・移民の歴史・伝統文化等のソフトパワーを活用した特色ある国際交流施策を展開しており、これらの施策は総じて独自性が高い。</p> <p>世界のウチナーンチュ大会においてなされる海外県人会等からの提言を沖縄県が施策化していること、沖縄県系子弟留学生の提案を受け、「世界のウチナーンチュの日」を制定し、関係団体が自主的にウチナーネットワークの発展に向けた取組を行う仕組みを構築していること、国内外県人会等のアンケート調査結果を受け、ソフト面の機能を集約化して「ウチナーネットワークコンシェルジュ」を設置したこと等、関係団体の要望等を踏まえ、実効性のある施策展開を図っている。</p>
③ 継続性	<p>【国内外県人会等をカウンターパートとした交流】 沖縄県の交流の歴史は古く、ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業は1969年から実施している。世界のウチナーンチュ大会は1990年から概ね5年毎に開催しており、コロナ禍により1年延期となったものの、来年10月には第7回大会を開催予定である。その他の事業についても、開始年度以降継続して実施している。</p> <p>【中国福建省との友好交流】 次年度は福建省との友好提携25周年にあたる記念すべき年であり、記念式典や物産ウィーク、留学生相互派遣に係る覚書の締結等、様々な行事を予定している。</p>
④ 活発性	<p>本県の国際交流施策は、「集結・象徴・集積・育成・促進・友好」の観点から多面的に展開することにより、各施策の相乗効果を高めている。</p> <p>ウチナーンチュ大会や「世界のウチナーンチュの日」の取組は、県内市町村や県内交流団体、国内外の県人会等を主体とした取組を促進しており、ウチナーネットワークコンシェルジュの運営には事業参加者OB/OGの若者がイベント等の企画に深く関わっている。これらの施策は「関わる者が作り上げていく」仕組みとなっている。</p> <p>また、人材育成事業においても、参加者は、受入型であれば沖縄の親戚宅に、海外派遣型であれば海外県人会会員宅にホームステイする等、繋がりを感じられる仕組みとしている。また、事業参加者OB/OGが講師やファシリテーターとして事業に参加する機会を設けている。</p> <p>今後は、新たに設置した「ウチナーネットワークコンシェルジュ」の自主事業として開催している「World Youth Uchina Shinka Online」等を活用して、世界に散在するこれらの人材を取り込んだ日常的なオンラインによる交流イベントを継続して開催していく。</p>
	<p>以下のとおり施策は全て海外県人会・市町村・県内交流団体・事業参加者OB/OGとの協働・連携により実施している。</p> <p>(1)世界のウチナーンチュ大会 官民で構成される実行委員会(第6回大会:124団体)により開催される全島あげての一大イベントである。第6回大会時には、県人会長・民間大使会議を開催し、「ウチナーネットワークの継承・発展」や、「世界のウチナーンチュの日の取組」について議論がなされ、参加者自身の行動宣言とともに、県への政策要望等も取りまとめられた。また、連携イベントとして30の市町村、10の交流団体で歓迎会等が開催される等、関係団体等と協働・連携したイベントとなっている。</p>

④ 協働性・連携性	<p>(2)世界のウチナーンチュの日に係る取組 2019年度は、17の市町村、10の交流団体、20の海外県人会において世界のウチナーンチュの日を祝う自主的な催しが開催されており、関係団体の主体的な取組が促進されている。2020年度は17の市町村、5の海外県人会において独自の取組がなされており、コロナ禍であってもオンラインを活用した取組が進んでいる。</p> <p>(3)ウチナーネットワークコンシェルジュ 沖縄県移住者子弟留学生OB/OGや、WYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)のサポーター等、将来のウチナーネットワークを担うコア人材によるSNSグループを立ち上げ、登録者による情報集約・発信・交流イベントの自主企画などを自立的に行うこととしている。</p> <p>(4)人材育成 事業参加者OB/OGがSNSグループで繋がり情報交換できる場を整備するとともに、各事業において講師、ファシリテーター、ボランティアスタッフとして事業参加者OB/OGを活用することで、「ウチナーネットワークを担うのは自分」との認識を促進させる仕組みを構築している。</p> <p>(5)民間大使 民間大使が実施する活動を助成することで、現地において沖縄県系人の功績や偉業を紹介するドキュメンタリービデオの作成や現地の祭事での沖縄の芸能披露等、行政では対応できない現地のニーズに即応した活動を促進している。</p> <p>(6)中国福建省との友好交流 2020年の新型コロナウイルスの感染拡大による世界的な医療物資が不足するなか、両県省において医療物資の相互支援がなされた。両県省の関係性において、歴史的友好関係から協働・共助の精神が培われている。</p>
⑥ 効果 (相手方にも与えた影響や効果を含む)	<p>ウチナーネットワークは沖縄を想う心やアイデンティティー、文化芸能等のソフトパワーで繋がる類い希な強固さを有するものである。沖縄県はこのウチナーネットワークに沖縄振興に係る重要性を見だし、国際交流の基軸としてきた。施策展開にあたっては、国内外県人会や民間大使、交流団体等、ウチナーネットワークを担う関係団体等の意見や提言等を丁寧に施策に反映していくことで、彼らの絶大な信頼を得てきた。今後も、関係団体等との連携を密に、実効性・即応性のある施策展開に努めていく。</p>
⑦ その他 (500文字以内)	

※定量的に示すことが可能な実績があれば、積極的に記載ください。

【審査のポイント】

①先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
②独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
③継続性	<p>・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。</p> <p>・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。</p>
④活発性	<p>・活動内容が質量ともに充実しているか。</p> <p>・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。</p> <p>・双方の自治体の住民への広がりがあるか。</p>
⑤協働性・連携性	<p>・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。</p> <p>・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。</p>
⑥効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。